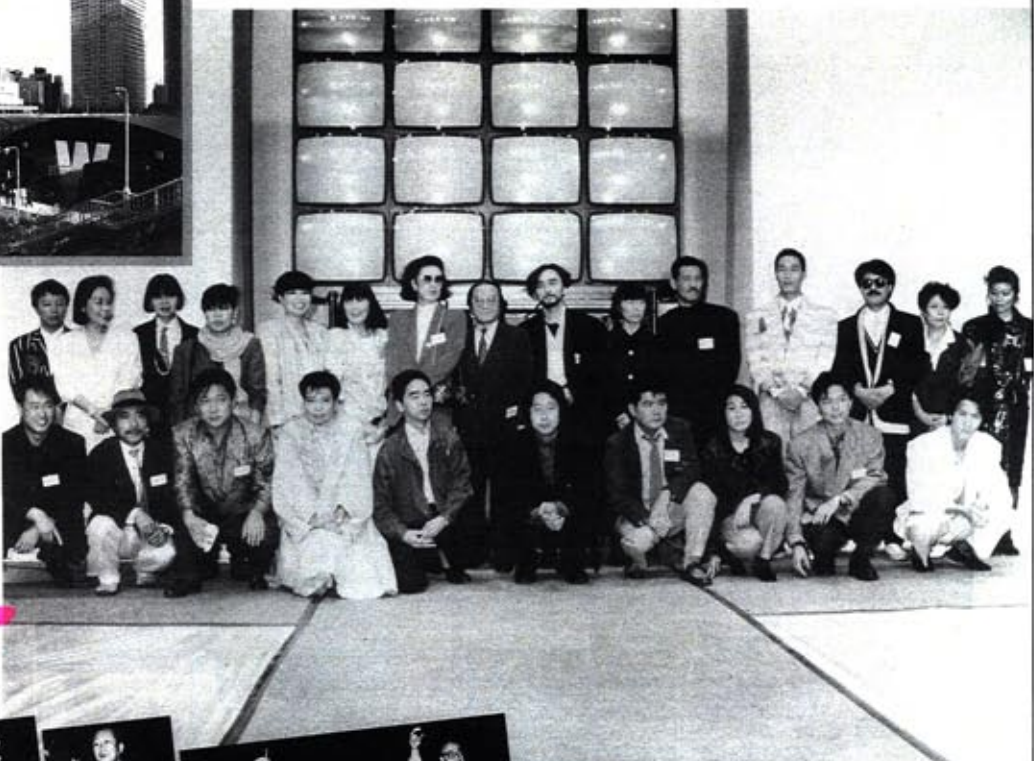




新宿駅西口に設けられた二基のテント

前列左より：佐藤博之、加藤和孝、小西真由、コシノヒロコ、安部保寿、安部雅幸、新崎正人、津森千聖、山崎洋司、佐藤博之
後列左より：中野信通、奥田ユキオ、伊藤真実子、コシノジユンコ、若井幸子、佐藤ヒロミ、高橋美、西村謙三、山本耀司、久次保利、坂本一也と重島、松田光弘
写真提供：奥田ユキ子



(後編略)



森野・ハタケ・モリヤマデザイナーズ
森野・ハタケ・モリヤマデザイナーズ
会長と中野信通、伊藤真実子、後列左より
小西真由、伊藤真実子

松本一幸、西山謙三氏

「カンバイ」とガラスを贈る小村純三氏
・佐藤和朗社長(左)と三浦博門・文化
庁長官(右)

東京デザイナー、大集合でハイ・ポーズ

東京プラザホテルコレクションがスタートする前日の4月14日、西新宿のテントでは開幕を祝うオープニングパーティが開かれた。挨拶に立った文化庁長官の三浦博門氏は、「東京で多くのデザイナーが揃ってショーを開くとすれば、これは貴重な文化です」と語り、デザイナーを代表して登壇した森美恵も、「文化庁長官が今日来られたことで、ファッションが文化として認められて嬉しい」と応えていた。山本耀司は、「3月はパリをぶちかましてきました。今月は東京をぶちかまします」と挨拶、大きな拍手が沸いていた。これだけのデザイナーが珍しく揃ったのを逃がす手はないと取材陣が声を揃えて、「みなさんと並んでいただけますか。揃ったところで……ハイ、ポーズ♪」



靴材の選別をとる西田博明・イトキン社長とベル・スプーク(右2人)



水島敏・原三吉両氏社長



左より・原三吉の西村正二氏(前)社長、西田博明氏
三井物産の梅谷全男・織屋第一部長(左)と藤村博昭・靴材協会の会長

最後のオートクチュールデザイナーと云われるベル・スプークが、とうとう日本にやって来た。昨年、イトキンとライセンス提携して、今秋から日本市場に本格進出。そのデビューコレクションが、4月12日、帝国ホテルで行われた。ショーでは今秋冬物とともに、85年春物のオートクチュールコレクションも披露され、会場には百貨店関係者のほか、アランソワーズ・モレシャン母城の顔も、痛しそうに乾杯の首領をとった西田博明・イトキン社長の姿が印象的であった。



試合開始の寸前の記念写真。左から・出門清水善三、第六年男、高田正三、I.T.F.ジャパン事務局長、グニエタバルカジョーニ、I.T.F. マネージャー、ジェリー・伊藤、岩崎良美、早坂あきよ、岡崎友紀、酒井ゆきえ

若さの勝利。ヴァレンティノ・ガラヴァーニ・スポーツの国内総発売元、I.T.F. ジャパン主催による「ヴァレンティノ・ガラヴァーニ・スポーツ・テニストーナメント」が、杉並のシグマスポーツクラブにて開催された。今春発売されたヴァレンティノのテニスウェアにちなんだ冠大会で、参加メンバーは、黒沢年男を始め出門英、清水善三、岩崎良美、岡崎友紀、酒井ゆきえ、早坂あきよ、ジェリー・伊藤ら、各々テニス通を自認する芸能界の8名。それと一般参加者3名を交えた男女ミックスのダブルス形式で試合は展開。熱戦の末、勝利の旗に就いたのは、優勝候補と前評判の高かった清水善三チーム。決勝戦で、同様に有力視されていた黒沢年男チームを若さで下し、見事栄冠を手中にした。

若さの勝利。ヴァレンティノ・ガラヴァーニ・スポーツの国内総発売元、I.T.F. ジャパン主催による「ヴァレンティノ・ガラヴァーニ・スポーツ・テニストーナメント」が、杉並のシグマスポーツクラブにて開催された。今春発売されたヴァレンティノのテニスウェアにちなんだ冠大会で、参加メンバーは、黒沢年男を始め出門英、清水善三、岩崎良美、岡崎友紀、酒井ゆきえ、早坂あきよ、ジェリー・伊藤ら、各々テニス通を自認する芸能界の8名。それと一般参加者3名を交えた男女ミックスのダブルス形式で試合は展開。熱戦の末、勝利の旗に就いたのは、優勝候補と前評判の高かった清水善三チーム。決勝戦で、同様に有力視されていた黒沢年男チームを若さで下し、見事栄冠を手中にした。



ペーター・佐藤の絵の前で、(左から)ペーター・佐藤、長川 剛、松本孝志の各氏

セツ・ゲリラ

主催の「セツ・アート展」が、昨年秋の第一回に引き続き、第二回展を銀座アート・ホールで開かれた。金子國義、ペーター・佐藤ら、23名の招待作家の作品も交じえ、長沢勲自らも、イタリアのアマルフィの情景を描いて出展。4月1日のオープニングには、セツの卒業生や、作家に混じり、出版・雑誌関係者が、金の卵を捜そうとくいるように作品に見入っていた。